

恵海著「アベノミクスの春が来た」大機小機、日本経済新聞 2017年2月18日朝刊を読む

1. (1)日本の名目国内総生産(GDP、四半期年率)は、2016年7～9月期に537兆円と既往ピーク(1997年10～12月期の536兆円)を20年ぶりに上回った。
  - (2)10～12月期は539兆円と拡大した。
  - (3)物価動向を示すデフレーターも上昇している。
  - (4)アベノミクスは開始から4年を経過し、どうやら春を迎えたようだ。
  
2. (1)最終需要の動向で注目されるのは、
  - ①個人消費全体としては前期比横ばいではあるものの、
  - ②60%を占めるサービス支出が9四半期連続で増加している点だ。(2)
  - ①原油価格急落や
  - ②消費税率上げなどのマイナス要因はあったが、
  - ③消費の基調は底堅い。
  
3. (1)こうしたアベノミクスの成功は、政府・日銀が一体となった政策運営の結果といえよう。
  - (2)具体的には、
    - ①黒田東彦日銀総裁の主導による大胆かつ未曾有の大型金融緩和の継続、
    - ②安倍晋三首相による大型予算や累次にわたる補正予算による公共投資増だ。
  - (3)さらに
    - ①トランプ大統領による米国経済の活性化期待、
    - ②日米間の実質金利差拡大による円安とそれに伴う企業収益の増加、
    - ③労働市場の改善による賃金上昇なども加わった。
  
4. (1)
  - ①アベノミクスや、
  - ②その最大の柱である大型金融緩和については、財政再建を放置した、
  - ③出口戦略を明示しない、などの批判が繰り返されてきた。
  - (2)だが、
    - ①最終需要や
    - ②景気指標の好転という事実が示すように、
    - ③アベノミクスは成功しつつある。
  
5. (1)
  - ①米連邦準備理事会(FRB)のバーナンキ前議長は、
  - ②1930年代の世界恐慌によるデフレから脱却できた国に共通な点は、
  - ③「変動為替相場制」と「超金融緩和」、
  - ④すなわち貨幣の急増による為替の減価だと、

⑤大著「大恐慌論」で明言した。

(2)アベノミクスはこの理論を実践した最高のモデルだ。

6. (1)景気先行指標は今年1月まで5カ月連続で上昇した。

(2)①米国やインドなどを中心とした海外景気の好転、

②原油価格の上昇、

③企業収益の好転や賃金上昇を主因とした国内最終需要の改善、

④人々の期待形成のフォワードルッキング(先取り)への変化などを背景に、

⑤2%の物価上昇目標は「18年度ごろ」とした日銀見通しより早く達成される可能性が出てきている。

7. (1)重要なのは政府・日銀に対し代案のない批判を繰り返すのではなく、

(2)虚心坦懐(たんかい)に事実を見て、

(3)現状を素直に認めることだろう。

(恵海)

#### <コメント>

国際エコノミスト、恵海氏によるアベノミクスの評価は極めて高い。「アベノミクス」を国際経済の真正面から見ると、恵海氏の評価は納得できる。もし「アベノミクス」がなければ日本や世界はどうなったか。デフレはますます深刻化し、にっちもさっちもいかない状況に落ち込んでしまったと思われてならない。その意味で、恵海氏の御指摘は有難い限りだ。

— 2017年2月18日 林 明夫記 —